水族館へ行こう！

45

京都大学白浜水族館

深見 裕伸

ヤツマタスナギンチャク

△ヤツマタスナギンチャク（水槽番号228）

砂の鎧まとう刺胞動物

スナギンチャクという刺胞動物を知っているだろうか。名前から想像できるように、砂を取り込んだイソギンチャクという意味だ。

分類学的にはイソギンチャクと別のグループだが、系統的にはかなり近い親せき関係にある。共に、触手が6の倍数になる六放サンゴの仲間に含まれている。

スナギンチャクの特徴はなんと言っても砂粒を体に取り込み、体を補強することである。サンゴ類が石灰質の骨格を作るのに対し、回りから硬いものを取り込むというのは実にうまい考えである。まさに〝砂の鎧（よろい）〟である。

興味深いのは、スナギンチャク類のいくつかの種類は、パリトキシンというフグ毒よりも強い毒を持っていることだ。防御用と考えられている。まだ明確になっていないが、この毒は体内に共生しているバクテリアや微小藻類由来であると言われている。

スナギンチャクの多くは熱帯種であるため、白浜やその周辺で見つけるのは非常に難しい。5㍍より浅い場所では、ここ3年で2群体しか見つけていない。しかし、深場には結構いるもので、イセエビの刺し網などに引っ掛かってくるヤドカリや貝の殻にくっついていることが多い。

現在、白浜水族館で展示しているのは貝殻の表面に付いたヤツマタスナギンチャクという種類である。

なぜヤツマタという名前が付いたかというと、ポリプが分裂しながら成長する際、さまざまな方向に枝分かれするからだと言われている。しかし、白浜水族館にいるものは残念ながらそこまで分かれていない。

スナギンチャクは種の名前を決めるのが非常に難しく、近年詳細な研究が始まったばかりである。今後、新しい種が続々と発表されるだろう。白浜とその周辺の種類も実は新種かもしれないというわずかな期待を抱いている。

（京都大学助教）